

**第6回 阿武隈川上流流域治水協議会**  
**第10回 阿武隈川上流大規模氾濫時の減災対策協議会**  
**議事概要**

**日 時：**令和6年1月29日 13時15分～15時30分

**場 所：**郡山市役所 本庁舎2F 正庁

**出席者：**福島市長（代理：建設部長）、郡山市長、白河市長（代理：建設部長）、二本松市長、伊達市長、本宮市長（代理：市民部長）、桑折町長（代理：建設水道課 建設係長）、大玉村長、鏡石町長、天栄村長（代理：建設課長）、泉崎村長、中島村長（代理：住民生活課 主任主事）、矢吹町長、石川町長、玉川村長、平田村長、三春町長、棚倉町長（代理：整備課長）、阿武隈急行株式会社 代表取締役社長（代理：業務部長）、福島県土木部長（代理：部参事）、福島県危機管理部長（代理：災害対策課長）、福島県農林水産部長（代理：農村計画課長）、農林水産省東北農政局 阿武隈土地改良調査管理事務所長、林野庁 関東森林管理局 福島森林管理署長（代理：総括治山技術官）、気象庁 福島地方气象台長、国立研究開発法人 森林整備センター 関東整備局 福島水源林整備事務所長、国土交通省東北地方整備局 三春ダム管理所長、国土交通省東北地方整備局 摺上川ダム管理所長、国土交通省東北地方整備局 福島河川国道事務所長

**報道機関：**朝日新聞社、福島民報社、福島民友社、福島建設工業新聞社、阿武隈時報社

**議事次第：**

1. 開会
2. 挨拶：福島河川国道事務所長 丸山 和基
3. 議事
  - ① 協議会規約変更について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料1・2】
  - ② 流域治水プロジェクト2.0について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料3】
  - ③ 各機関における流域治水の取組について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料4】  
【発表者：摺上川ダム管理所長、三春ダム管理所長、福島地方气象台長、  
福島県土木部参事、郡山市長、二本松市長、伊達市長】
  - ④ ソフト対策の主な取組について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料5】
4. 情報共有
  - ① 阿武隈川における治水対策の進捗・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料6】
  - ② 特定都市河川指定に向けた検討状況（釈迦堂川流域・逢瀬川流域・谷田川流域）  
・・【資料7】
5. その他（意見交換）
6. 閉会
7. 写真撮影

◆ **協議会規約変更について**

< 事務局 >

- ・協議会規約変更（案）については、委員から意見無しのため、本日（1月29日）付で改訂する。

◆ **議事に対する委員からの意見**

< 玉川村長 須金 泰一 >

- ・自然災害がこれだけ頻発化・激甚化している中で住民の安全・安心をいかに確保するか又は守っていくかということが非常に重要。
- ・その中で流域治水ということで河道掘削、堤防嵩上げ（堤防整備）、遊水地整備を総合的に進めていく必要があると考えている。
- ・流域治水プロジェクト 2.0 の1事業として遊水地整備が記載されているが、特出しして記載しても良いくらいに、我々は重要な国家プロジェクトだと考えている。
- ・国としては遊水地整備計画どれくらい重要と認識しているのかを確認させていただきたい。

< 事務局 >

- ・流域治水プロジェクト 2.0 の資料には流域全体の様々なメニューを記載する必要があるため、遊水地整備の記載としては小さくなっておりますが、流域治水プロジェクト 2.0 の中でも非常に重要な取り組みとして考えております。

< 玉川村長 須金 泰一 >

- ・遊水地整備は重要な取り組みとして考えてもらわないと困る。
- ・この資料を見た感じ、遊水地整備はこれぐらいの位置付けでしかないのかなとしか感じられなかったので確認させていただいた。
- ・緊急治水対策プロジェクトということで説明を受けていて、大きな国家プロジェクトとして認識して一体となって進めている中で、これぐらいの位置付けなのかなという思いが正直ある。
- ・もっと上位な位置付けになっていないと、なかなか村民のみなさんに対しても説明できない。
- ・この資料からはあまりにも遊水地整備が過小に思えて、国の根本的な考えを聞かせていただきたいなと思い質問させていただいた。

< 福島河川国道事務所長 丸山 和基 >

- ・この資料上はプロジェクト内の全ての取組を素案的に載せている形になりますが、流域の安全性を確保するためには遊水地整備が必ず必要な重要な事業となっておりますので、国としましても今後も地域の方に協力頂きながらしっかりと進めていきたいと考えてお

ります。

#### < 矢吹町長 蛭田 泰昭 >

- ・流域治水は流域全体を守っていくということで役割や機能を分担して負担をみんなで負いながらやっていくものだと言明を受けました。
- ・我々は地域の防災もあるが、下流域のみなさんと協力しながら流域全体を守っていくということで遊水地整備を始めた。
- ・遊水地の必要性、効果に対する理解が流域及び沿川の人たちにどれだけ理解されているのか。
- ・遊水地整備に当たり、我々は率直に大変な負担と苦しみを受けている。小規模自治体なので人的負担もかかっている。
- ・そのような中で、どうして遊水地の問題について下流域の皆さんに国の方からしっかり説明してくれないのか。
- ・東日本台風の被害に対して流域全体でどうやって低減していくかという中で、流域治水の遊水地が非常に大きな役割を持っていると考えている。
- ・福島県知事の発言（3つの葛藤）として、3つ目に遊水地事業をあげていただいている。
- ・我々は決してこの事業をやってほしいと国に泣きついたわけではない。
- ・用地買収が相当進み始めた中で将来の利活用が全く見えていない。
- ・上流部、下流部の役割分担や認識について、広報活動においてどれほど理解が進んだでしょうか。
- ・3町村共通の認識と思っているが、非常に厳しい状況であり、非常に小さな自治体でこれだけ負担をしている中でこれを見たときに愕然とした。もう少し考えていただけないか。
- ・みんなでやっていくのが流域治水ではないのか。みんなで負担していくのが流域治水ではないのか。

#### < 鏡石町長 木賊 正男 >

- ・350haもの敷地を遊水地にするという計画が、この国家プロジェクトに入っているように見えない。
- ・下流自治体の方々がどの程度理解しているのかということも昨年の期成同盟会の中でも説明させていただいた。
- ・こういう機会に各首長に共有してもらい、遊水地整備による減災に向けて福島県を縦軸として、取り組んでいくのが効果的。
- ・R10完成目標に向けて、早く進めないと、次の災害がいつ来るか分からない。
- ・用地交渉が始まっている中で地権者からいろんな意見を伺っている。そういう所も含めて、我々と一緒に痛みを少し分けていただければと思う。
- ・阿武隈川流域自治体は運命共同体と思っているのでよろしくお願ひしたい。

#### < 浅川町長 江田 文男 >

- ・3町村での遊水地整備がスムーズに進んでいると思っていたが、村町民または首長が納得していないのではないのでしょうか。
- ・「水害から命を守り、豊かな暮らしの実現に向けた流域治水国民運動」(資料3-2)になっていない。
- ・国がもっとしっかり説明をして、我々一生懸命やっているのだということを見せなければならぬ。

#### < 福島河川国道事務所長 丸山 和基 >

- ・国として、しっかり流域の方々に遊水地の治水効果がどの程度のものなのかというところを理解してもらうために、パネル展等を行っているが、住民の方々に理解いただけるような取り組みを引き続き実施していきたいと考えている。

#### < 伊達市長 須田 博行 >

- ・遊水地整備に関しては、下流域の住民が一番恩恵を受けると感じている。
- ・伊達市においても、遊水地にはこういった効果があるということ、上流3町村のおかげであるということを住民にも説明しているし、パネル展も実施している。
- ・上流側のご苦勞をもっと下流自治体も理解しながら進めていかなければならないと思っている。
- ・流域として治水対策がされていて、上流自治体のおかげで守られているということを伝えていかなければと思っている。

◆ 全体を通して委員からの意見

< 本宮市長代理 市民部長 馬場 広元 >

- ・遊水地整備事業について、流域自治体であります本宮市といたしまして、遊水地整備の状況や問題について共有させていただき、いっしょに取り組んでいきたいと考えておりますのでよろしく願いいたします。

< 矢吹町長 蛭田 泰昭 >

- ・「水害から命を守り、豊かな暮らしの実現に向けた流域治水国民運動」にふさわしい動きをして頂きたい。
- ・流域の上流下流が協力しながら、それぞれの力、負担をしながら流域の生命、財産を守っていかなければならない。
- ・パネル展も実施して頂きましたが、新聞を活用した特集を組んでいただきたい。
- ・河川は様々な害を及ぼすけども、日頃は人の生活と共に生きている河川をどのように手なずけて、災害が起きてもダメージコントロールができるようにするために、上流・下流又は国・県が一体となって流域治水の国民運動としていかなければ続いていけないと思う。国民運動として、実際に動いてほしい。

< 事務局 >

- ・流域治水国民運動ということをしかりと受け止めまして前に進めつつ、下流流域の方々にもご理解を得るように、国としてもしかり取り組んでまいりたいと思いますのでよろしく願いいたします。

< 鏡石町長 木賊 正男 >

- ・河道掘削と遊水地群の整備効果として、約1mの水位低下という説明を受けたが、もう少し分かるようなPRをしてほしい。
- ・国や自治体が今やっていることを、もっと住民のみなさんに伝えて欲しい。
- ・広報の方法は色々あるかと思うので、よろしく願いしたい。

< 玉川村長 須金 泰一 >

- ・なぜ遊水地整備が必要なのか背景、必要性や効果をしかりと説明していかないとわからないと思うのでお願いいたします。

< 事務局 >

- ・頂きましたご意見をしかりと受け止めまして内部的にも県と共有しながらしかりと改善して取り組んでいきたいと思ひます。

< 平田村長 澤村 和明 >

- ・平田村は分水嶺にあるので、よそから水が流れて来ることが無い。
- ・山林に治水能力を持たせることをやっておりますので、同じような上流の自治体にも治水能力の確保が必要というような啓蒙をやってほしいと思います。
- ・平田村では年間何千万本もの山林の間伐等を毎年実施しているが、間違いなく保水力につながっていることは、明らか。
- ・我々が一番上流で生活している責任として、下流の皆さん方に少しでも役に立つように協力していきたい。